

施設名称	〔44〕 東京都台東区立社会教育センター																			
指定管理者の名称	株式会社山武（現アズビル株式会社）		指定期間	H24.4.1 ~ H29.3.31																
1. 指定管理者の概要																				
(1)業務内容	ビルディングオートメーション、産業オートメーション、システム開発、設計、製造、販売、賃貸、工事施工、保守、輸出並びに試験及び検査等																			
(2)類似施設の管理実績	東京都北区滝野川体育施設他35施設																			
(3)経営状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>売上総利益</th> <th>販売費・一般管理費</th> <th colspan="2">営業利益（単位：百万円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22年</td> <td>61,831</td> <td>49,160</td> <td colspan="2">12,670</td> </tr> <tr> <td>23年</td> <td>61,807</td> <td>50,536</td> <td colspan="2">11,271</td> </tr> </tbody> </table>						売上総利益	販売費・一般管理費	営業利益（単位：百万円）		22年	61,831	49,160	12,670		23年	61,807	50,536	11,271	
	売上総利益	販売費・一般管理費	営業利益（単位：百万円）																	
22年	61,831	49,160	12,670																	
23年	61,807	50,536	11,271																	
2. 施設の概要																				
(1)所在地	台東区東上野6-16-8（上野小学校と併設）																			
(2)設置目的	区内の社会教育登録団体等に自主学習の場を提供し、学習活動及び組織活動を活発に行わせる。ラーニングスクウェア等を開設し自主グループの結成、区民の生涯教育、文化教育の向上に助力する。																			
(3)利用者	社会教育団体として登録されている団体。生涯学習課及び指定管理者が行う事業に参加する区民等																			
(4)開館日・時間	開館日：火～日曜、第2・4月曜：9：00～22：00 第1・3・5月曜：13：00～22：00 休館日：年末年始（12/28-1/4） 設備点検日																			
(5)規模	ホール130人 会議室40人 調理室32人 和室20人 温水プール 25m×15m（7コース）																			
(6)人員体制	週40時間勤務 12名（清島温水プールも含む）																			
3. 事業（サービス提供）の概要																				
(1)委託事業	1.生涯学習・社会教育活動に関する資料の収集及び学習情報の提供 2.施設利用者の生涯学習・社会教育活動に対する指導、助言及び相談 3.生涯学習ラーニングスクウェアの実施																			
(2)自主事業	7講座実施 延べ15回 延参加人数：224人 社会教育センター館まつり 延参加人数：1,740名																			
4. 予算決算の推移																				
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度														
予算	委託料	88,106,000	84,400,000	75,222,000	76,019,000	77,001,000														
	料金収入等	2,900,000	2,500,000	2,450,000	2,560,000	2,600,000														
	管理経費	91,006,000	86,900,000	77,672,000	78,579,000	79,601,000														
決算	委託料	87,604,880	84,089,000	75,222,000	76,019,000	77,001,000														
	料金収入等	2,417,785	2,348,870	2,247,735	2,147,080	2,150,130														
	管理経費	83,415,534	86,437,870	77,469,735	78,166,080	79,151,130														
	収支	6,607,131	0	0	0	0														
5. 施設の稼働状況等（活動指標）																				
指標名称		単位	20年度	21年度	22年度	23年度														
年間開館日数		日	353	355	356	358														
ラーニングスクウェア講座数		講座	18	15	14	13														
自主事業講座数		講座	12	8	7	7														
6. 成果指標																				
指標名称		単位	目標値 （25年度）	21年度	22年度	23年度														
利用率		%	53.0	52.8	50.7	50.9														
利用件数		件	2,200	2,199	2,119	2,138														
利用人数		人	33,000	33,712	30,335	32,331														

7. 平成23年度評価結果に対する現在までの取組み

全体的に利用率が高い施設にあって和室と調理室が伸び悩んでいたが、ラーニングスクウェアや自主事業の活用により利用率向上を図っている。職員の研修を実施することでソフト面で質のよいサービス提供を行ない、ハード面でホームページの充実や教育館ニュースの発行、1階ロビーの情報案内用モニターの活用により、利用率向上に努力している。

8. 評価項目
 3：協定等の水準を上回っている。
 2：協定等の水準どおりである。
 1：おおむね協定等の水準だが課題がある。
 0：協定等の水準を下回っている。
 -：評価対象外項目。

評価の観点	評価項目			
(1)事業の運営 平均 [2.3]	(a)施設の目的達成	[2]	(f)開館時間等の遵守	[3]
	(b)サービス水準	[2]	(g)自主事業の成果	[3]
	(c)職員配置	[2]	(h)個人情報保護	[2]
	(d)職員研修	[2]	(i)緊急時対応	[2]
	(e)案内・接遇	[3]	(j)警備・防犯体制	[2]
(2)施設の維持管理 平均 [2.0]	(a)建物保守・設備機器点検	[2]	(e)危険箇所等の確認	[2]
	(b)備品の管理	[2]	(f)管理記録の作成・保存	[2]
	(c)清掃・衛生管理	[2]	(g)業務委託の事前承認	[2]
	(d)施設の修繕	[2]	(h)省エネ・省資源・環境配慮	[2]
(3)利用者の満足度 平均 [2.0]	(a)利用者・第三者機関の評価	[2]	(d)利用しやすい環境整備	[2]
	(b)苦情・要望への対応と報告	[2]	(e)関係団体・地域との関わり	[2]
	(c)利用者数の目標達成	[2]		
(4)歳入歳出 平均 [2.0]	(a)適正な予算執行	[2]	(c)収支計画の達成	[2]
	(b)経費縮減のための取組み	[2]	(d)利用料等の徴収・管理	[2]

9. 評価
 S（水準以上）：協定等の水準を満たし、一部に水準を上回る内容がある。
 A（適正）：協定等の水準を満たす管理が行われている。
 B（一部課題あり）：協定等の水準を満たしているが、一部に課題がある。
 C（課題あり）：協定等の水準を満たしているが、課題が複数ある。
 D（水準未滿）：協定等の水準を満たしていない。

評価の観点	評価	説明
(1)事業の運営	S	社会教育センターにしかない調理室を使った講座をラーニングスクウェアや自主事業で積極的に行い、食に対する認識を深めるとともに利用率を上げた。子どもが主体的に参加できるエコに関する講座を夏休み中に企画し、募集人数の2倍を超える希望があった。
(2)施設の維持管理	A	老朽化している機器をこまめに点検調整しながら、修繕工事の早めの提案を行い適正な維持管理を行なっている。冷暖房の節電についても山武製の機器を省エネ仕様にセットして効率よく快適な環境づくりを行なっている。
(3)利用者の満足度	A	年度当初は震災の影響による営業時間の短縮で利用率が落ちたこともあったが、サークルが主体的に企画運営する講座を実施したことで会員が充実感や達成感が持てサークルの活性化にもつながった。ホームページや社教館ニュースで最新の情報発信を行なっている。
(4)歳入歳出	A	施設の老朽化に伴い修繕費が増えているが、アズビルの技術を生かしたCO ₂ 排出量抑制と環境バランスを整合した省エネプログラムの試験導入により光熱水費削減に努めた。

10. 総合評価 良好 妥当 要努力 要改善 不適

妥当	独自の設備を利用した講座をラーニングスクウェアや自主事業で積極的に行い、利用率の向上に努めている。またサークルが主体的に企画運営する講座を実施したことでサークルの活性化にもつながっている。
-----------	--

11. 平成24年度評価結果に対する今後の対応

引き続き各館の統括を行いながら、需要に対応した講座を企画し、サークルフェスタで生まれた各館との横の連携を今後のサークル活動につなげる。研修による各スタッフのスキルアップと人材活用により学びの還元につながる学習プランづくりに尽力し、生涯学習を行なう施設利用者の増加に努める。